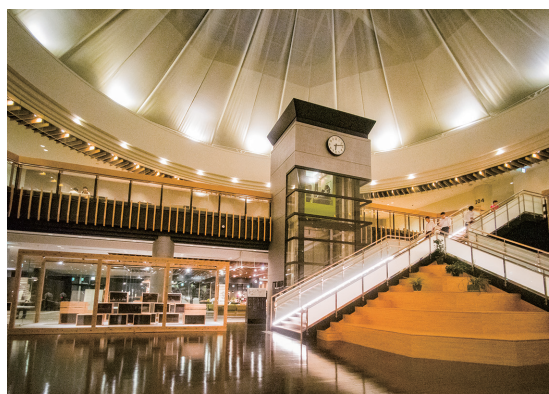


にぎわいと活力を生み出すまちづくり 「中心市街地の活性化」 「地域活性化」のための取り組み



躍進する都城を紹介する連載企画「都城の元気を徹底紹介」。シリーズ最終回となる今回は、「中心市街地の活性化」や、「市民サービスのさらなる向上」、「デジタル化の推進」などの取り組みと成果について特集します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎ 23-3174



市立図書館

切望された 中心市街地の活性化

活性化のためのコンセプト

消費者ニーズの多様化や郊外型店舗の急増などの影響から、本市の中心市街地の百貨店や店舗が相次いで閉店。来街者は激減し、空き店舗が目立つようになりました。

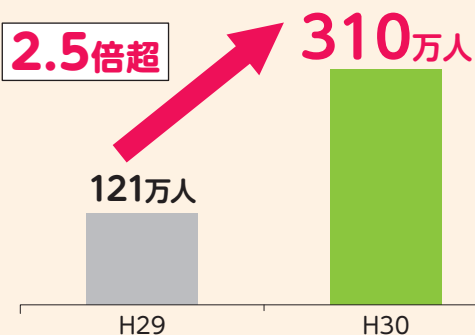
そこで、中心市街地活性化の切り札として百貨店跡の再生を計画。ニーズ調査やワークショップを関係機関と連携して実施し、調査結果などから「憩いの場Ⅱたまり場」を基本コンセプトに、子育て中の女性が利用しやすい中心市街地の中核となる施設として再整備しました。

中心市街地中核施設 「Mallmall」の誕生

平成30年4月28日、まちなかに、憩い・学び・楽しむ「たまり場」として、多機能の施設を集約した中心市街地中核施設「Mallmall」が誕生。市立図書館をはじめ、子育て世代活動支援センター「ぶれびか」や都城市保健センター、まちなか広場など、乳幼児から高齢者まであらゆる世代が集い、活動する拠点を整備しました。

整備前に約121万人だった中心市街地の来街者は、平成30年度には310万人（約2.5倍）に増加しました。

中心市街地来街者数





Mallmallから 広がる「にぎわい」

まちなかに誕生した「たまり場」。
Mallmallを核に人の流れがで
き、
そのにぎわいは周辺の商店街などに
も広がり始めました。

平成29年度に51・4軒であった中
心市街地のMallmallを中心とした
最重点エリアの空き店舗率は、令和
元年度には29・9割に大幅改善。平
成30年度以降の新規出店は、40件を
数えます。

回遊したくなる「仕掛け」 まちなかイルミネーション

「まちなか」に訪れた人をその周
辺に回遊させるため、平成27年度に
「都城まちなかイルミネーション」
をスタート。Mallmallを中心に国
道10号や西都城駅周辺が、年末年始
を挟んで約2カ月間イルミネーショ
ンで結ばれました。



都城まちなかイルミネーション

イルミネーションの規模を年々拡
大し、当初40万球だった電球は、令
和元年度には90万球にまで増加。幻
想的な光が、まちなかを鮮やかに彩
ることで、来街者の誘引を図りまし
た。また、各地点のイルミネーショ
ンを見るために、回遊性は高まり、
まちなか全体のにぎわいにつながっ
ています。

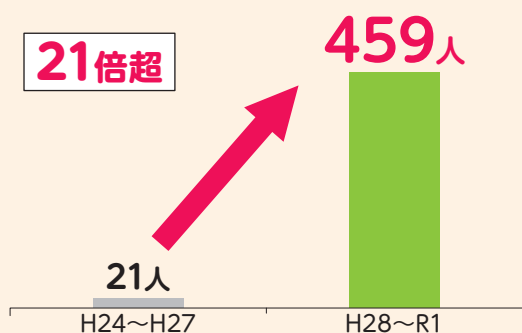
地域活性化

人口減少対策や持続可能な地域づ
くりの観点から、地域の特性を生か
した活性化に取り組んでいます。

移住・定住の促進

市では、移住・定住を促進させる
ため、「移住支援給付金・ひなた暮
らし実現応援事業費給付金」や「転
職応援補助金」など、九州トップク
ラスの移住支援を実施。移住者は、
21人（平成24年度～27年度）から、
459人（平成28年度～令和元年度・
21倍）に急増しました。

移住者数の推移



各地域を持続可能に

高齢者などの買い物支援やコミュ
ニティバスの運行、地域資源を生か
した新商品の開発補助など、地域の
活性化に取り組んでいます。

また、地域の特性を生かした活性
化のため、住民を主体に課題を見付
け解決する地域活性化事業補助金を
交付。平成29年度から令和2年度ま
での4年間に、1地区当たり1千万
円を交付し、令和元年度は、全15地
区で、43事業が実施されました。

地区公民館の建設

地域の社会教育や生涯学習の拠点
として、多目的ホールを備え、バリ
アフリー化にも配慮した、住民の皆
さんが利用しやすい地区公民館を順
次整備。平成
28年度から、
祝吉、沖水、
志和池地区公
民館を整備
し、現在、庄
内地区公民館
の整備を進め
ています。



市民目線でより身近に、より優しい市役所へ 「市民サービスのさらなる向上」 のための取り組み

市では、マイナンバーカードの普及推進や接遇の徹底、また、おくやみ窓口を開設するなど、市民サービスのさらなる向上に取り組んでいます。

topic

トピック

行政機関として全国初！ 「都城フィロソフィ」を策定！

市では、平成31年4月、さらなる市民の幸福と市の発展のため「都城フィロソフィ」を策定。「あいさつが全ての基本」や「コンセプトを立て、戦略的に行動し、結果を出す」といった都城市職員としての心構えを定めています。

なお、都城フィロソフィ手帳は、職員課（☎23-2119）にて1冊500円で販売しています。

－「都城フィロソフィ」の柱－

第1部 素晴らしい人生を送るために

- 第1章 成功方程式（人生・仕事の方程式）
- 第2章 正しい考え方を持つ
- 第3章 熱意を持って、地道に努力を続ける

第2部 素晴らしい都城市とするために

- 第1章 一人ひとりが都城市役所
- 第2章 全員の心を一つにする
- 第3章 燃える集団となる
- 第4章 結果にこだわる



詳細はこちら

マイナンバーカードの普及推進

顔写真付きICカードである

マイナンバーカードは、コンビニなどでの各種証明書交付サービスに利用できるなど、利便性の高さが特徴です。



市では、マイナンバーカード普及推進のため、「都城方式」と呼ばれる独自の取り組みを実施。タブレット端末を活用し、商業施設や自治公民館などのほか、警察署と連携して、

運転免許センターで出張による申請補助を行いました。

これらの取り組みの結果、本市の令和2年7月1日時点のマイナンバーカードの交付率は37.9割で、市区別全国1位となっていて、特別定額給付金（10万円）のスムーズな給付にもつながりました。

より身近な市役所へ

より親しみやすく、居心地の良い空間を目指して、平成30年度に市役所の窓口を全面リニューアル。案内表示を窓口ごとに色分けしたことで、分かりやすくなりました。

また、総合案内や待合におもてなしガイドを配置。

担当部署まで案内したり、高齢者や体が不自由な人のサポートをしたりするなど、丁寧な接客に笑顔で取り組んでいます。



遺族に寄り添うおくやみ窓口

市では、大切な人を亡くした遺族の手続きをサポートするおくやみ窓口を令和元年11月、市役所1階市民課に県内の自治体として初めて開設。



おくやみ窓口では、申請書を一括作成し、手続きの必要な窓口を案内することで、申請書を記入する負担や手続きに対する不安の軽減、手続き時間の短縮につなげています。

『デジタル化推進』の取り組み

市では、令和元年8月に、市民サービス向上や自治体経営の効率化、物産振興の3つの柱からなる「都城デジタル化推進」を宣言。さまざまなデジタル技術を活用しながら、市民サービスや事務の効率化に取り組んでいます。

LINEを活用した情報発信

令和元年10月、スマートフォンアプリ「LINE」に都市公式アカウントを開設。利用登録の際、本人の住む地域のほか、イベントや子育て、ごみ収集日の情報など関心のある項目を選ぶことで、必要な情報を受け取ることができます。

また、職員が直接、移住相談に応じる全国初の「対話型チャットボット」など、さまざまな便利な機能を備えています。



プレゼント企画もあり！

デジタル面接

市では、本年度から職員採用試験にデジタル面接を導入しました。スマートフォンやタブレット端末などを利用して、受験者が質問に答える様子を自ら録画し、送信。時間や場所を問わず面接に臨めることから、受験者の負担を軽減しました。

システムの導入により、受験者の増加につなげ、優れた人材を確保します。



「ぶれぴか」入退館管理システム

令和2年4月、Mallmail内の子育て世代活動支援センター「ぶれぴか」に、新たな入退館システムを導入しました。施設利用の際に登録カードを持参し、手書きによる受け付けを行っていましたが、システムの導入により、インターネットでの会員登録後に付与されるQRを専用機器にかざすことで、受け付けが完了。スムーズな利用が可能になり、利便性が向上しました。



登録はこちら

『市民の健康増進』の取り組み

市では、一人一人の健康寿命を延ばし、元気に歳を重ねていけるよう、市民の健康増進に取り組んでいます。

こけなからだづくり講座

市では、いつでもでも住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう、住民主体の介護予防事業「こけなからだづくり講座」



の普及拡大に取り組んでいます。

この講座は、自治公民館など身近な場所で、高齢者の身体機能や生活習慣の改善を図りながら、生きがいの普及拡大に取り組んでいます。

糖尿病重症化の予防

を持てる居場所づくりにもつながって、平成26年度の25会場から、令和元年度には249会場に開催箇所が増加しました。

本市は、特定健診受診者のうち、糖尿病の疑いのある人が16・7割で、県内9市中ワースト1位。このため、かかりつけ医と連携し、受診勧奨や保健指導などを行うことで、人工透析が必要となる末期腎不全などの重症化予防に取り組んでいます。

topic

トピック

世代を超えて楽しく健康づくり！ みやこんじょ弁ラジオ体操第1

市では平成27年度、大人から子どもまで誰もが知っているラジオ体操を、みやこんじょ弁で語った愉快で楽しい「みやこんじょ弁ラジオ体操第1」を制作。ふるさとの方言や文化などに愛着を持ってもらいながら、健康づくりに役立ててもらっています。

みやこんじょ弁ラジオ体操のCDは、総合政策課（☎23-7161）で無料配布しています。

